

## (12) Official Gazette of Registered Utility Model Application (U)

(19) Japan Patent Office (JP)

(11) Registration No.: 3059677

(45) Date of Issuance: July 13, 1999

(24) Date of Registration: March 31, 1999

(51) Int. Cl.: A44B 19/26

// A44B 19/16

(21) Application No.: H10-9331

(22) Date of filing: November 26, 1998

(73) Proprietor(s): ARU CORP.

383-8, Higashishindou, Sakurai-shi, Nara, Japan

(73) Proprietor(s): KASHIWARA SEITAI CO., LTD..

13-5, Taiheiji, Kashiwara-shi, Osaka, Japan

(73) Proprietor(s): P. R.

69-1, Higashishindou, Sakurai-shi, Nara, Japan

(72) Inventor: Ryouichi OOTSUBO

c/o ARU CORP

85-1, Higashishindou, Sakurai-shi, Nara, Japan

(54) Title of the Utility Model: Engaging slider for fastener disposed at an opening of sealable bag

## (57) Abstract:

[Object] To provide an engaging slider for a fastener disposed at an opening of a sealable bag with advantages such as easy and secure equipping through an effortless inserting process at the edge of the sealable bag, hard-to-happen detachment after having been equipped, and simple structure so as to be able to achieve mass production at low cost.

[Problem(s) to be solved] An engaging slider for a fastener in this design disposed at an opening of a sealable bag comprises a pair of opposite pieces 2, 2 for attachment, the pieces being integrally provided with a base portion 1, wherein at least one

fitting groove 3 into which a belt-like fastener in the above-mentioned sealable bag from outside the bag is press-engaged is provided inside one of the opposite pieces 2, 2, while providing a tongue-like stopper 4 between both pieces 2, 2 protruding from the base portion 1 where the two opposite pieces 2,2 are provided, the edge of the stopper being set to be positioned short in front of the base portion 1 toward the groove 3 and said two opposite pieces 2, 2 being pushed together by elasticity of the engaging slider itself.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3059677号

(45) 発行日 平成11年(1999) 7月13日

(24) 登録日 平成11年(1999) 3月31日

(51) Int.Cl.<sup>8</sup>

識別記号

F I

A 4 4 B 19/26

A 4 4 B 19/26

// A 4 4 B 19/16

19/16

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 実願平10-9331

(22) 出願日 平成10年(1998)11月26日

(73) 実用新案権者 592033149

株式会社アール

奈良県桜井市東新堂387番地の8

(73) 実用新案権者 000153683

株式会社柏原製袋

大阪府柏原市太平寺1丁目13-5

(73) 実用新案権者 598004398

有限会社ビィアール

奈良県桜井市東新堂69-1

(72) 考案者 大坪 良一

奈良県桜井市東新堂85-1 株式会社アール内

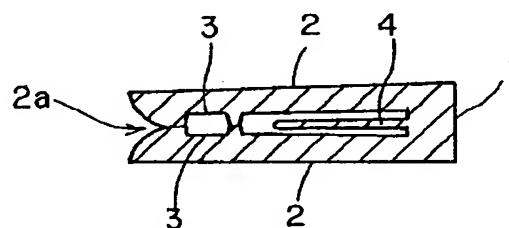
(74) 代理人 弁理士 岩永 方之

(54) 【考案の名称】 密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダー

(57) 【要約】

【課題】 簡単な挿入操作のみによって、密封用袋の開口部の辺縁に容易、確実に装着でき、且つ装着した後は妄りに離脱することがなく、構造簡単で安価に量産できる等の利点を備えた密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダーを提供すること。

【解決手段】 本考案に係る密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダーは、基部1から一体に対向連設した二枚の挟着用の対向条片2、2を備え、該対向条片2、2のうちの少なくとも一方の条片2の内面に、上記密封用袋の帯条ファスナーを密封用袋の外側から嵌入して帯条ファスナーを加圧係合するための少なくとも一条の嵌入溝3を設けると共に、上記対向条片2、2の連設基部1から両条片2、2間に舌片状のストッパー4を突設して、その突出先端が上記嵌入溝3の、上記連設基部1側における手前に位置するように短めに設け、且つ係合用スライダー自体の弾性により、上記対向条片2、2を圧着させて構成してある。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 密封用袋の開口部の辺縁の両側内面に対設したプラスチック製の雌雄の帯条ファスナーに係合するためのスライダーであって、この係合用スライダーは、基部から一体に対向連設した二枚の挟着用の対向条片を備え、該対向条片のうちの少なくとも一方の条片の内面に、上記密封用袋の帯条ファスナーを密封用袋の外側から嵌入して帯条ファスナーを加圧係合するための少なくとも一条の嵌入溝を設けると共に、上記対向条片の連設基部から両条片間に舌片状のストッパーを突設して、その突出先端が上記嵌入溝の、上記連設基部側における手前に位置するように短めに設け、且つ係合用スライダー自体の弾性により、上記対向条片を圧着させて構成したことを特徴とする密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダー。

【請求項2】 二枚の各対向条片の内面に、一条の帯条ファスナーを加圧係合するための一条の嵌入溝が対設されている請求項1に記載の密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダー。

【請求項3】 二枚の各対向条片の内面に、二条の帯条ファスナーを加圧係合するための二条の嵌入溝が対向並設されている請求項1に記載の密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダー。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の第1の実施の形態を示す正面図である。

\*

2

\* 【図2】 その側面図である。

【図3】 図1のA-A線における断面図である。

【図4】 係合用スライダーを密封用袋の開口部の辺縁に挟着した状態の正面図である。

【図5】 図4のB-B線における拡大断面図である。

【図6】 図4のC-C線における拡大断面図である。

【図7】 本考案の第2の実施の形態を示す正面図である。

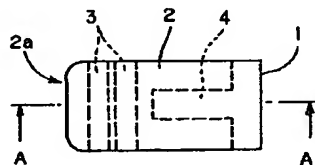
【図8】 その側面図である。

10 【図9】 図7のD-D線における断面図である。

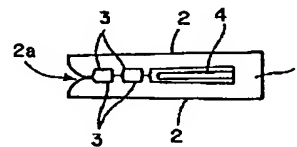
【符号の説明】

- 1 係合用スライダーの基部
- 2 挟着用の対向条片
- 2a 前方閉じ合わせ部
- 3 嵌入溝
- 4 ストッパー
- B 密封用袋
- B<sub>1</sub> 開口部
- F 帯条ファスナー
- F<sub>1</sub> 雄ファスナー部材
- F<sub>2</sub> 雌ファスナー部材
- D 流路
- E 排出口
- V 逆止弁
- W 可圧縮物

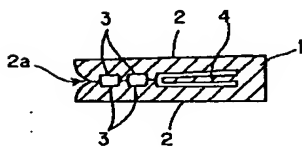
【図1】



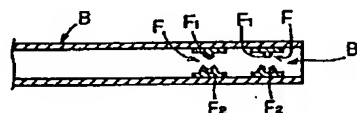
【図2】



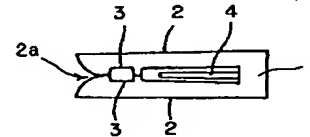
【図3】



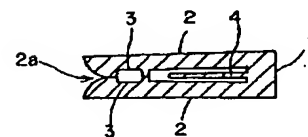
【図5】



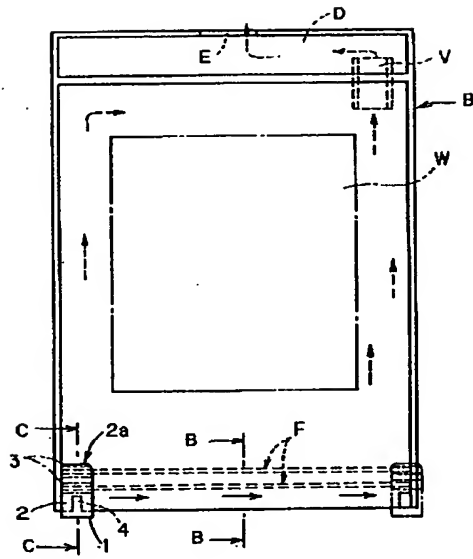
【図8】



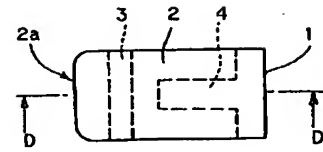
【図9】



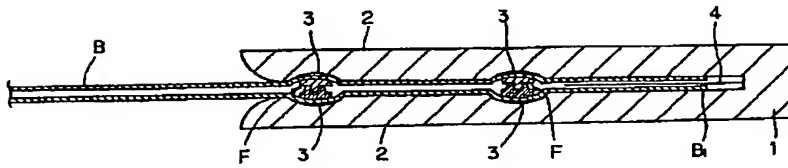
【図4】



【図7】



【図6】



## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

## 【考案の属する技術分野】

本考案は、密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダーの改良に関し、さらに詳しくは、例えば、物品の密封用袋の開口部の両側内面に少なくとも一条ずつ対向させて設けた雌雄の帯条ファスナーを、該開口部の外側に挟着したスライダーの1回のスライド操作により容易、且つ確実に係合させるためのスライダーの改良に関する。

## 【0002】

## 【従来技術】

従来、この種のファスナーの係合用スライダーとして、数多くのものが提供されており、例えば、登録実用新案第3046704号の登録公報に開示されているように、連結基部から二枚の挟着用の条片を狭い間隔を保って対向突設し、該条片の少なくとも一方の条片の先端側の内面に、密封袋本体に並設した雌雄の帯条ファスナーを外側から抱持するための、両側を開放した二条の嵌合溝を並設すると共に、上記二枚の条片の連結基部から両条片間の間隔内に舌片状のストッパーを突設し、且つ該ストッパーから外れた位置において、二枚の条片の連結基部の近傍内面に両条片を加圧係着させるための凹凸状の係合部を対設して構成されたスライド式密閉具が知られている。

## 【0003】

また、例えば、登録実用新案第3051482号の登録公報に開示されているように、係合具本体と該係合具本体の挟圧取付け部材とから構成された雌雄の帯条ファスナーのスライド式係合具であって、係合具本体は、連設基部から二つ折り可能な左右の条片のうちの少なくとも一方の条片の内面に、密封袋に並設した少なくとも二条の帯条ファスナー部を外側から各別に嵌入して各帯条ファスナーを加圧係合するための少なくとも二条の嵌入溝を並設すると共に、上記左右の両条片の連設基部から両条片の内面側に舌片状のストッパーを突設して、その突出先端が上記各嵌入溝のうちの、連設基部側の嵌入溝の手前に位置するように短めに突設して構成されており、上記挟圧取付け部材は、二つ折りされた係合具本体

を上下から挾持して、係合具本体が密封袋の開口部の辺縁から離脱しないように構成されたスライド式係合具が知られている。

#### 【0004】

##### 【考案が解決しようとする課題】

而して、上記の両従来技術の場合は、それぞれのストッパーによって開口部の密閉作業が完了したことを確実に感知できるので、視覚的に密閉状態を確認する必要がなく、且つ摺動密閉時に、係合具が密封袋から横方向に抜脱するおそれがないといった利点を備えているが、対向条片の嵌合溝乃至嵌入溝により帯条ファスナーを確実に係合するために、前者の場合は、対向条片を加圧係着させる凹凸状の係合部を対向条片の内面に対設する必要がある、また後者の場合は、係合具本体とは別個に該係合具本体を外側から挾圧するための挾圧取付け部材を使用している。

#### 【0005】

したがって、両者いずれの場合も、構造が複雑でコスト高になる問題があると共に、密閉具乃至係合具を密封用袋の開口部の辺縁に取付けるためには、密閉具乃至係合具を密封用袋の開口部の辺縁に挿入する操作と、凹凸状の係合部を係合するか、或は係合具本体の外側に挾圧取付け部材を被嵌するといった二重の手間を要する問題がある。

#### 【0006】

本考案は、上記の問題を解決することを課題として開発されたもので、一回だけ簡単な挿入操作によって、密封用袋の開口部の辺縁に容易、確実に装着でき、且つ装着した後は妄りに離脱することがなく、構造簡単で安価に量産できる等の利点を備えた密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダーを提供することを目的とする。

#### 【0007】

##### 【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決し、その目的を達成する手段として、本考案は、密封用袋の開口部の辺縁の両側内面に対設したプラスチック製の雌雄の帯条ファスナーを係合するためのスライダーであって、この係合用スライダーは、基部から一体に対

向連設した二枚の挾着用の対向条片を備え、該対向条片のうちの少なくとも一方の条片の内面に、上記密封用袋の帯条ファスナーを密封用袋の外側から嵌入して帯条ファスナーを加圧係合するための少なくとも一条の嵌入溝を設けると共に、上記対向条片の連設基部から両条片間に舌片状のストッパーを突設して、その突出先端が上記嵌入溝の、上記連設基部側における手前に位置するように短めに設け、且つ係合用スライダー自体の弾性により、上記対向条片を圧着させて構成したことを特徴とする密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダーを提供するものである。

#### 【0008】

また、本考案は、上記のように構成した密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダーにおいて、二枚の各対向条片の内面に、一条の帯条ファスナーを加圧係合するための一条の嵌入溝が対設されている密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダー、及び二枚の各対向条片の内面に、二条の帯条ファスナーを加圧係合するための二条の嵌入溝が対向並設されている密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダーをそれぞれ提供するものである。

#### 【0009】

##### 【考案の実施の形態】

以下に、本考案の実施の形態を添付図面に基づいて説明すれば、図1～図3は本考案の第1の実施の形態を示しており、この実施の形態で示す密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダーは、ポリプロピレン等の硬質プラスチックを原料として金型成形されたもので、基部1から一体に対向連設した長方形の挾圧用の対向条片2、2と、該対向条片2、2の対向内面に、その短巾方向に並設した、後述する密封用袋の密閉用ファスナーを袋の外側から嵌入して加圧係合するための二条の嵌入溝3、3と、上記対向条片2、2の連設基部1の中間部から対向条片2、2の前方閉じ合わせ部2aに向って、該対向条片2、2間に一体に突設した舌片状のストッパー4とから構成されている。

#### 【0010】

また、上記ストッパー4は、その突出先端が上記嵌入溝2、2の手前即ち、上



記連設基部1側における手前に位置するように短めに突設されており、且つ上記対向条片2、2は、硬質プラスチックからなる係合用スライダー自体の剛性と弾性により対向側に強く弾引付勢されていて、密封用袋の開口部の辺縁を挟着するように圧着されている。

#### 【0011】

次に、上記のように構成された第1の実施の形態の使用状態を作用、効果と共に説明すれば、指先または拡開器具（図示せず）を用いて、閉じられた状態にある係合用スライダーの対向条片2、2を、その前方閉じ合わせ部2aから押し開き、図4に示すように、例えば、衣類、蒲団等の可圧縮物Wを収容した密封用袋Bの開口部B<sub>1</sub>の片隅の辺縁間に係合用スライダーのストッパー4を挿入し、対向条片2、2の内面の対称位置に形設した二条の嵌入溝3、3を、密封用袋Bの開口部B<sub>1</sub>の辺縁に並設した二条の帯条ファスナーF、Fの外側に位置させ、次に、指先または拡開器具により対向条片2、2に加えられていた押し開き力を解除すると、対向条片2、2は、その弾引付勢された弾着力により閉じ合わされて密封用袋Bの開口部B<sub>1</sub>の辺縁を挟着する。

#### 【0012】

したがって、密封用袋Bの開口部B<sub>1</sub>の辺縁に並設した二条の帯条ファスナーF、Fは、図6に拡大図示するように、係合用スライダーの対向条片2、2の二条の嵌入溝3、3内に嵌入挟着されるので、係合用スライダーは密封用袋Bの開口部B<sub>1</sub>の辺縁に確実に取付けられて離脱するおそれがなく、且つ開口部B<sub>1</sub>の辺縁にスライド自在に取付けられるものである。

#### 【0013】

次に、図4に示すように、密封用袋Bの片隅に挟着してある係合用スライダーを矢印で示すように密封用袋Bの他方の片隅まで摺動させると、開口部B<sub>1</sub>の両側内面に対向並設した二条の帯条ファスナーF、Fの各雄ファスナー部材F<sub>1</sub>と各雌ファスナー部材F<sub>2</sub>は、係合用スライダーの対向条片2、2の内面に対向並設した二条の嵌入溝3、3により挟圧抱持されているため、円滑確実に係着され、開口部B<sub>1</sub>を確実に密閉する。

#### 【0014】

このとき、スライダー 1 に設けたストッパー 4 は、開口部 B<sub>1</sub> の辺縁間において、帯条ファスナー F、F の手前まで挿入されているので、係合用スライダーのスライド操作に支障を来たすおそれがないことは勿論、係合用スライダーのスライド操作が完了した際には、密封用袋 B の両側辺縁が開口部 B<sub>1</sub> まで接着されているため、一方の辺縁にストッパー 4 が当って、それ以上は進行しないので、視見していなくても開口部 B<sub>1</sub> の密閉作業が完了したことを知ることができる利点があると共に、係合用スライダーが密封用袋 B から側方に抜脱するのを防止できる利点がある。

#### 【0015】

次に、密封用袋 B を加圧して内部の空気を逆止弁 V から放出し、流路 D を経て排出口 E から空気を外部に排出して衣類、蒲団等の可圧縮物 W の嵩を縮小すると、日時が経過しても開口部 B<sub>1</sub> から外気が流入するおそれがなく、コンパクトに縮小された状態を長く保持できる。

#### 【0016】

また、密封用袋 B 内に封入した衣類、蒲団等の可圧縮物 W を外部に取出す場合は、指先操作で帯条ファスナー F、F の係合を解いて行なうが、再び衣類、蒲団等の可圧縮物 W を密封入する場合には、係合用スライダーを反対側にスライドすればよいものである。

なお、上記実施の形態では、係合用スライダーを可圧縮物の密封用袋に使用した場合について説明したが、他の密封用袋にも当然使用できるものである。

#### 【0017】

次に、図 7 ～ 図 9 は、本考案の第 2 の実施の形態を示しており、上記第 1 の実施の形態と相違しているのは、二枚の各対向条片 2、2 の内面に一条の嵌入溝 3、3 を対設した点のみであって、係合用スライダーの材質、ストッパーの突設態様等に変りはなく、したがって略同じ作用、効果を奏するものであるが、この場合は、密封用袋 B の開口部 B<sub>1</sub> の辺縁に対設した一条の帯条ファスナー F に上記一条の嵌入溝 3 を嵌合すればよいので、係合用スライダーの取付け作業が容易になる利点がある。

#### 【0018】

以上、本考案の主要な実施の形態について説明したが、上記実施の形態は単に例示の目的で挙げたものであるから、本考案は、この実施の形態に限定されるものではなく、例えば、挾着用の対向条片2、2の内面に設ける嵌入溝は、一方の条片のみに設けてもよいものであって、要するに、考案の目的を達成でき且つ次のクレームの各項を逸脱しない限り、全て本考案の範囲に包含されるべきものである。

#### 【0019】

##### 【考案の効果】

本考案は、密封用袋の開口部の辺縁の両側内面に対設したプラスチック製の雌雄の帯条ファスナーに係合するためのスライダーであって、この係合用スライダーは、基部から一体に対向連設した二枚の挾着用の対向条片を備え、該対向条片のうちの少なくとも一方の条片の内面に、上記密封用袋の帯条ファスナーを密封用袋の外側から嵌入して帯条ファスナーを加圧係合するための少なくとも一条の嵌入溝を設けると共に、上記対向条片の連設基部から両条片間に舌片状のストッパーを突設して、その突出先端が上記嵌入溝の、上記連設基部側における手前に位置するように短めに設け、且つ係合用スライダー自体の弾性により、上記対向条片を圧着させて構成したことを特徴とする密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダーに係り、前記のようにして使用するものであるから、次の諸効果を奏する。

#### 【0020】

(1) 係合用スライダーの両対向条片の前方閉じ合わせ部を該両対向条片の弾着力に抗して押し開き、両条片間で密封用袋の開口部の辺縁を挾着して、該条片の内面に設けた嵌入溝内に密封袋の開口部の辺縁の両側内面に対設した雌雄の帯条ファスナー部を嵌入させるだけの簡単な手段により、該係合用スライダーを密封用袋の開口部の辺縁に係着した後、この係合用スライダーを摺動する操作によって、開口部を円滑確実且つ能率的に反復繰返して密閉できる。

#### 【0021】

(2) したがって、既述した従来の、この種の係合用スライダーのように、他の係着手段を用いなくても、容易確実に係合用スライダーを密封用袋の開口部

の辺縁に係着できる至便性があり、構成も簡単で安価に提供できる。

【0022】

(3) 係合用スライダーに設けたストッパーによって開口部の密閉作業が完了したことを確実に感知できるので、視覚的に密閉状態を確認する必要がなく、且つ摺動密閉時に、係合具が密封袋から横方向に抜脱するおそれがない。

【提出日】平成11年1月21日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正内容】

【0005】

したがって、両者いずれの場合も、構造が複雑でコスト高になる問題があると共に、密閉具乃至係合具を密封用袋の開口部の辺縁に取付けるためには、密閉具乃至係合具を密封用袋の開口部の辺縁に挿入する操作と、凹凸状の係合部を係合するか、或は係合具本体の外側に挾圧取付け部材を被嵌するといった二重の手間を要する問題がある。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正内容】

【0009】

【考案の実施の形態】

以下に、本考案の実施の形態を添付図面に基づいて説明すれば、図1～図3は本考案の第1の実施の形態を示しており、この実施の形態で示す密封用袋の開口部に設けられたファスナーの係合用スライダーは、ポリプロピレン等の硬質プラスチックを原料として金型成形されたもので、基部1から一体に対向連設した長

方形の挟着用の対向条片2、2と、該対向条片2、2の対向内面に、その短巾方向に並設した、後述する密封用袋の密閉用ファスナーを袋の外側から嵌入して加圧係合するための二条の嵌入溝3、3と、上記対向条片2、2の連設基部1の中間部から対向条片2、2の前方閉じ合わせ部2aに向って、該対向条片2、2間に一体に突設した舌片状のストッパー4とから構成されている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正内容】

【0010】

また、上記ストッパー4は、その突出先端が上記嵌入溝3、3の手前即ち、上記連設基部1側における手前に位置するように短めに突設されており、且つ上記対向条片2、2は、硬質プラスチックからなる係合用スライダー自体の剛性と弾性により対向側に強く弾引付勢されていて、密封用袋の開口部の辺縁を挟着するように圧着されている。